



高瀬神社

くにたまの会会報

【第3号】

発行／くにたまの会
 高根県出雲市大社町杵築東195
 出雲大社社務所内
 TEL：0853-53-3100



くにたまの会総裁
 出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様におかれては、平素より「くにたまの会」への格別のご高配を賜っておりますこと厚く御礼を申し上げます。

先般、九州地域を襲った地震災害は熊本県内に深い爪痕を残しました。文化財建造物をはじめ多くの住宅や施設に甚大な被害が及び、未だ多くの方々が不便な生活を強いられています。誠に心が痛みます。ライフラインの復旧や衣食住に関わる支援は勿論大事ですが、被災された方々の傍らに寄り添うこと、心の支えとなることも復興へ向けた今後の取り組みの中で重要になってくるのではないのでしょうか。五年前の東日本大震災のとき、多くの日本人が「絆」という言葉で繋がったことをご記憶の方も多いと思います。その時の心を思い出し、被災地復興へ向けて共に歩んで行ければと思います。

伊勢・志摩サミットでは各国首脳が神宮を参拝し、その御神域を歩いた感想を「調和」・「静謐」と表現するとともに、そこに溢れる精気を浴びて「平和」という言葉

を共通に口にしていました。「平和」は人類共有の理念・理想であり、「敬神生活の綱領」にも「世界の共存共栄とを祈ること」として、その精神が掲げられています。先人たちの悠久の祈りを継ぎ、平和を祈ることは私たち神職が共有する使命であります。

私たちが仰ぎ奉る大神様は、多くの艱難辛苦を克服して偉大な御神格を養われ国づくりなさって、この国土に平和と安寧をもたらされました。そして、遂には和議の心で国譲りをなさり、御皇室を戴く我が国体の礎を生み成されました。

今後とも、大神様の御神慮を敬仰する多くの人々の御神縁に結ばれて、その御神徳の宣揚と斯道の興隆・発展に尽くすとともに、会員神社それぞれの隆昌に寄与すべく努めてまいりたいと存じますので、何卒お心添えを賜りますようお願い申し上げます。

本会および会員神社のますますの発展と、御皇室の弥栄を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成二十七年総会

平成二十七年七月七日、富山県「高瀬神社」に於きまして、平成二十七年の総会が開催されました。総会に先立ち、正式参拝を執り行い、記念写真を撮影しました。「大国殿」を会場に行われた総会



では、全国より四十四社の会員の宮司が集い、平成二十六年度の事業報告、会計報告がなされ、平成二十七年の事業計画案、予算案、各議事の審議についても滞りなく進行し、承認されました

その後、水島神明宮宮司・北陸大学未来創造学部教授の長谷川孝徳氏により、「神饌と食文化」と題して講演会が行われ、神代の時代からの特別な由来のある神饌と、我々が長い歴史の中で育んできた食文化が反映されている事等、大変意義深い講演をいただきました。その後、会場を「ANAクラウンプラザホテル」に移し、恒例となりました懇親会が和やかに開催されました。祝宴の最中には、富山市の八尾町八尾に暮らす人々が大切に守り育んできた民謡行事である越中八尾おわら保存会の皆様

によります「越中おわら節」のご披露をいただきました。会員たちはこの度の総会を通じて、会の拡充発展と鎮座地域の活性化を目指して、会のはたらきに一層心を深めつつ、相互の親睦を深め合いました。



会員神社紹介

大神神社

【鎮座地】

奈良県桜井市三輪一四二二

【御祭神】

大物主大神

【配祀】

大己貴神
少彦名神

創祀に関わる伝承が『古事記』や『日本書紀』の神話に記されています。『古事記』によれば、大物主大神が出雲の大国主神の前に現れ、国



造りを成就させる為に「吾をば倭の青垣、東の山の上につきままつれ」と三輪山に祀られることを望んだとあります。

また、『日本書紀』でも同様の伝承が語られ、二神の間答で大物主大神は大国主神の「幸魂・奇魂」であると名乗られたとあります。そして『古事記』同様に三輪山に鎮まることを望まれました。この伝承では大物主大神は大国主神の別の御魂として顕現され、三輪山に鎮まられたという事です。

この様に記紀の神話に創祀の伝承が明瞭に記されていることは貴重なことで、当社が神代に始まった古社中の古社と認識されており、ご祭神の神格が如何に高かったかを物語っていると言えます。

そして、ご祭神がお山に鎮まられるために、当社は古来本殿を設けずに直接に三輪山に祈りを捧げるといふ、神社の社殿が成立する以前の原初神祀りの様を今に伝えており、その祭祀の姿ゆえに我が国最古の神社と呼ばれています。

「大神」と書いて「おおみわ」と読むように、古くから神様の中の大神様として尊ばれ、第十代崇神天皇の時代には国造りの神、国家の守護神として篤く祀られました。平安

時代に至っても大神祭、鎮花祭、三枝祭が朝廷のお祭りとして絶えることなく斎行され、神階は貞観元年（八五九）に最高位の正一位となりました。延喜式の社格は官幣大社で、のちに大和国一之宮となり、二十二社の一社にも列なるなど最高の待遇に預かりました。

中世には神宮寺であった大御輪寺や平等寺を中心に三輪流神道が広まり、広く全国に普及し人々に強い影響を及ぼしました。近世に入ると幕府により社領が安堵されて三輪山は格別の保護を受け、明治時代にはその由緒によって官幣大社となりました。現在も国造りの神様、生活全般の守護神として全国からの参拝があり、信仰厚い人々に支えられて社頭

繞道祭

(一月一日)

元朝に国家の安泰・国民の平安を祈って行われます。拝殿奥の禁足地で官司により鑽り出された浄火が拝殿前にて三本の大松明に移され、氏子に担がれて三輪山麓の撰末社を繞る勇壮な火の祭典です。大和の祭りは繞道祭から始まると言われています。

おんだ祭

(二月六日)

明治以前は正月初卯日に行われた、五穀の豊饒を予祝する祭典です。拝殿の向拝を神田に見立て、田作り男が牛形や木鋏を用いて面白おかしく田作りの所作を演じ、早乙女が苗松で田植えを行うなど所々に古式を留めています。参列者の笑いが大きいほど豊作になると言われています。

江包・大西のお綱まつり

(国の重要無形民俗文化財)

江包・大西両地区は倭屯田司出雲臣の祖、淤宇宿禰の伝承地（中世の出雲荘）で、お綱まつりは初瀬川に素盞鳴命と稲田姫の御神体が流れ着いた伝承に基づいて、両地区で二月十一日に行われる民俗行事です。

大西で作られた女綱が氏神の市杵鳥神社を出発して江包の素盞鳴神社に向かい、女綱が神社に着くと江包で作られた男綱も素盞鳴神社に向かい、神社で男綱と女綱を合体させて鳥居のそばの木につるします。男女交合に象徴されるように、豊作と子孫繁栄を祈る行事です。

【URL】

<http://www.oomiwa.or.jp>

温泉神社

【鎮座地】

栃木県那須郡那須町湯本一八二

【御祭神】

大己貴命
少彦名命
誉田別命

第三十四代舒明天皇の御代（六三〇年）、那須郡司であった狩野三郎行広は、山間の瘦せた土地に植え育てた作物が立派な大角を立てた白鹿に荒らされ続けた事に領民が苦しむ



事を聞き、弓矢を携えて鹿を討つべく追ったところ、白鹿に深手を負わせたが、この深山に逃げ込まれ濃霧の中行方を見失うところに白髪の温泉神が現れ「白鹿が谷に湧く温泉で傷を癒やしている事。その温泉は万病に効果あり。」とのお告げを受け見事鹿を討ち取りました。その後この地に社を建立し温泉神をお祀りしました。正倉院文書駿河国正税帳に奈良時代の貴族が湯治に訪れていたことが記載されています。

第八十三代出雲大社宮司千家尊祀氏揮毫 温泉神社社号扁額あり。

例大祭に取り行われる、湯汲祭・調湯祭・献湯祭は創建起源となる鹿の湯源泉を汲み上げ神前に献上する夜の神事です。先ず祓い清めた温泉を巫女が湯桶に汲み入れる「湯汲祭」。そして温泉発見の祖、狩野三郎行広公を祀る見立神社に捧げ「発見された温泉は、これに間違いありませんか」と調べて戴く「調湯祭」に続き、御本殿にて御湯を献上し自然の恵みの感謝と永久に温泉が尽きる事が無く湧き出で那須温泉の発展を祈願する「献湯祭」の神事が行われます。

【URL】

<http://nasu-yuzen.jp>

万九千社

通称：万九千神社

【鎮座地】

島根県出雲市斐川町併川二五八番地

【御祭神】

櫛御氣奴命 大穴牟遲命
少彦名命 八百萬神

全国で神無月と呼ばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼んでいます。全国の八百萬神が、出雲大社をはじめ出雲の地に滞在され、人々の縁結びや五穀豊穰など様々な事柄について神議なされるからと伝えられています。

八百萬神は当社において、神在月十七日から二十六日の夕方にかけて、出雲路における神議の締め括りをなされています。そしてその晩、明年の再会を期して、神宴（直会）を催したのち、翌朝未明にかけて諸国へとお旅立ち（神等去出）から（さで）なさると伝えていただきます。鎮座地周辺の地名を神

地周辺の地名を神



立ち呼ぶのはそれに由来しています。当社の創祀、創建は定かではありませんが、奈良時代の『出雲国風土記』や平安時代の『延喜式』にみえる「神代社」、「神代神社」が、のちの「万九千社」にあたりと伝えられています。

中世には、「神立社」（鎌倉時代頃）や「神達社」（安土桃山時代）と称されていました。近世になると、「神立大明神」、「万九千大神」などとも呼ばれ、明治維新以降は、立虫神社（旧村社）の境内社（旧無格社）、「万九千社」と称して祀られてきました。

建物の背後に八百萬神の宿られる磐境、神籬を祭り、本殿、幣殿、拝殿の機能を兼ね備えた御神殿に主祭神を奉斎してきました。この特殊な形態の現社殿は、明治十一年以来、実に百三十六年ぶりに造替（全面改築）し、去る平成二十六年十月十日に正遷座祭を行ったばかりです。

いにしえから「不動の霊地」と称される鎮座地周辺は、古代、出雲国出雲郡神戶郷と呼ばれていました。神戸とは、熊野大神と杵築大神の御神領のこと。水路と陸路における出雲平野の交通の要衝として、また斐伊川下流域に広がる稔り豊かな大地の鎮めとして、八百萬神の重要な祭場として今に至ります。

【URL】

<http://www.mankusenjinja.jp/>

くにたまの会 新規入会神社 (平成28年6月30日現在)

神社名	宮司名	鎮座地
薬菜神社	大宮信彦	宮城県
西本町大黒社	田中基彦	兵庫県
湯神社	田村光弘	岡山県
稲田神社	木山久利	島根県
越峠荒神社	福田実	島根県

神社名	宮司名	鎮座地
赤塚荒神社	川谷誠一	島根県
前原荒神社	喜和田公二	島根県
身武智神社	古瀬智彦	島根県
石宮神社	古瀬智彦	島根県

平成28年6月30日現在会員数 215社

くにたまの会 ホームページの紹介

くにたまの会 ホームページの紹介会のホームページが完成致しました。
 会の紹介や会員神社の詳細が地域ごとにご覧いただけます。
 ご意見やご要望がありましたら事務局まで連絡をお願い致します。

【ホームページURL】 <http://kunitama.jp/>



「くにたまの会」 会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました記事や情
報を会報に掲載させて頂きます。

就きましては、遷座祭・式年祭・特
殊神事・地域の伝統行事・身近な出来
事等どんな事でも結構でございますの
で、ご寄稿を賜りますようお願い申し
上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五三一三一〇〇

メール johoh@izumoooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。

くにたまの会 入会のご案内

くにたまの会は、「だいきくさま」を奉斎する神社の全国組織で、御神徳の宣揚と
斯道の発展、鎮座地域の活性化などを目的に左記の活動を行なっています。

より大きな御神縁が結ばれますよう、一社でも多くの神社にご加入戴きたく、ご案
内申し上げます。

活動内容

- 親睦融和相互研修会
- 会員名簿の作成
- 会報の発行
- 伝統神事・民俗文化の交流・研修など
- 全国会員神社巡拝
- 会員神社の社報の交換
- 会員神社氏子の交流・親睦

※年会費は参千円です。



入会案内のしおりをお送り致します
ので、必要部数を事務局までお知ら
せ下さい。

「くにたまの会事務局」

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

電話 〇八五三一五三一三一〇〇